

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する有識者会議(第6回)

議事概要

令和6年5月10日(金) 15:00~17:00

於:中央合同庁舎2号館1階共用会議室2A・2B

各委員からの主な意見

- 工事の状況については、今どういう状況かだけでなく、当初の計画からどのような状況が発生して、結果的に3~4年の遅れにつながっているのかを、しっかりと分析し、分かりやすく説明する必要がある。
- 今回羊蹄トンネルにおいて、新たに掘進停止の事象が生じているとの報告があったが、このように、トンネル工事においては、事前調査を行っても実際に掘削するまで把握できない事象があることを広く理解してもらうことが重要。
- 羊蹄トンネルにおいては、新たな掘削停止の事象が生じており、岩塊有無について調査中とのことであるが、岩塊が確認された場合には、岩塊を地上から撤去する方法だけでなく、他にどのような撤去方法があるかを検討してはどうか。
- 今後の工程遅延リスクの評価にあたっては、今後の調査で得られるデータに加えて、これまで蓄積してきたものを活用できるようしっかり整理しておくべき。
- 地質不良により工程遅延が生じているトンネル工区においては、追加のボーリング調査等を反映した地質縦断図を作成するなど、より正確なリスクの把握に努めるべきではないか。
- 地質不良対策等検討ワーキングチームについては、山岳工法に限らず他の工法についても議論できる体制となっているべきではないか。
- 地質不良対策等検討ワーキングチームから報告を受けることとしている工程の工夫策について、現場の受注者の意見を踏まえて機構がどのように取り込んでいけるのか、プロセスと体制づくりが重要。
- 通常のトンネルのように計測結果に応じて順々に支保工のランクを上げていくと、時間のロスにつながることもあるので、これまでの経験を踏まえ、一気に支保工のランクを上げるなど、通常とは異なる施工パターンも検討してほしい。